



# 耳鼻咽喉科医師とその家族対象 アレルギー疾患に関する調査結果報告書

2018年12月26日

## ■実施概要：

- (1)調査対象：耳鼻咽喉科標榜医師
- (2)有効回答数：600人
- (3)調査方法：インターネット調査
- (4)調査時期：2018/10/4～2018/11/1

## ■本調査に関するお問い合わせ先

エムスリー株式会社 ビジネスインテリジェンス&リサーチカンパニー mail : bir\_toiawase@m3.com

- **有症率**：スギ（ヒノキ）花粉症は全体で37.2%、年代別では「40～49歳」が最も高く53.9%  
通年性アレルギー性鼻炎は全体で26.9%、年代別では「30～39歳」が最も高く39.7%
- **重症度**：花粉症全体の67.9%、通年性アレルギー性鼻炎全体の53.1%が中等症以上
- **治療選択**：花粉症では「第2世代抗ヒスタミン薬」、「鼻噴霧用ステロイド薬」、「点眼薬」  
通年性アレルギー性鼻炎では「第2世代抗ヒスタミン薬」、「鼻噴霧用ステロイド薬」、「抗ロイコトリエン薬」
- **実施しているアレルギー性鼻炎対策**：「マスク」「空気清浄機」「室内のこまめな清掃」
- **舌下免疫療法の実施経験ある医師**：スギ舌下免疫療法45.6%、ダニ舌下免疫療法34.9%  
スギ舌下免疫療法で6.5%、ダニ舌下免疫療法で6.1%の患者が治療を中断
- **舌下免疫療法**：「有効性」「安全性」「QOLの改善性」「患者さんの満足度」に高評価

今回の調査について、三重県・ゆたクリニックの湯田厚司院長（日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・代議員）は以下のようにコメントした。

「アレルギー疾患の罹患・治療状況の変遷を比較する上で、非常に有意義な調査だ。スギ（ヒノキ）花粉症の罹患率は、以前に行われた他の調査と比較してもさらに上昇しており、また、詳細分析の結果、70代以上の高齢者の花粉症罹患率も20%を超えるなど、専門医からみても気づきの多い調査結果となった。さらに、新たな治療選択肢として登場した、舌下免疫療法についても医師がどこを評価しているかが明らかになるなど、多くの示唆に富んだ調査といえる」

本調査では、全国の耳鼻咽喉科医師を対象にインターネットアンケートにより回答者自身及び回答者の家族の年齢、性別、居住地、アレルギー系疾患罹患状況、治療実態などに関する聞き取りを行った。集計にあたり、性別×年代×エリアの構成比を実態に近づけるため、「総務省平成27年国勢調査」の人口構成比に補正する形でウェイトバック集計を実施。回答医師のみに聴取した項目（診療実態）に関しては、「厚生労働省平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」の人口構成比に補正する形でウェイトバックエリア（8区分）別にウェイトバック集計を実施した。

※年代区分は0-9歳、10-19歳、20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳、60歳以上

※エリア区分は北海道、東北、北関東・甲信越、首都圏、近畿・北陸、東海、中国・四国、九州

※ウェイトバック集計：回収データを、母集団の構成にあわせてデータに重みづけをして集計する方法

母集団と回収データの構成比が異なる際に、属性の抽出率や回収率の違いを補正する場合などに使用される

## 都道府県

	医師数		医師数
北海道	35	滋賀県	5
青森県	2	京都府	12
岩手県	2	大阪府	47
宮城県	11	兵庫県	33
秋田県	4	奈良県	6
山形県	5	和歌山県	7
福島県	5	鳥取県	1
茨城県	11	島根県	2
栃木県	5	岡山県	12
群馬県	7	広島県	17
埼玉県	15	山口県	9
千葉県	15	徳島県	7
東京都	72	香川県	3
神奈川県	39	愛媛県	14
新潟県	9	高知県	6
富山県	12	福岡県	20
石川県	5	佐賀県	3
福井県	5	長崎県	9
山梨県	3	熊本県	4
長野県	13	大分県	4
岐阜県	16	宮崎県	3
静岡県	19	鹿児島県	6
愛知県	45	沖縄県	5
三重県	10	<b>合計</b>	<b>600</b>

## 年代

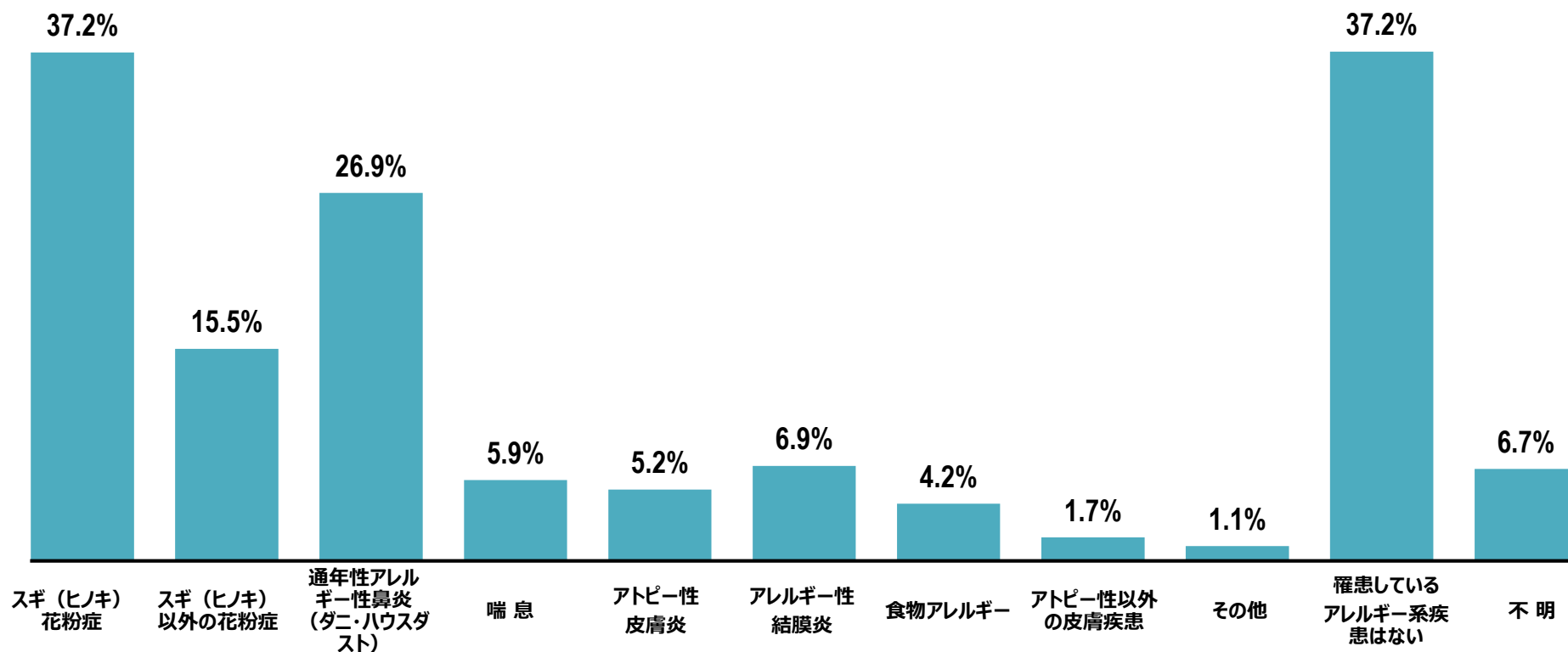
	医師数
20～29歳	14名
30～39歳	107名
40～49歳	193名
50～59歳	186名
60～69歳	90名
70歳以上	10名

## 性別

	医師数
男性	502名
女性	98名

Q1:先生の「年代」と「性別」についてお教えてください。 Q2:先生がお住いの都道府県をお選びください。

スギ（ヒノキ）花粉症の有症率は37.2%、通年性アレルギー性鼻炎の有症率は26.9%だった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

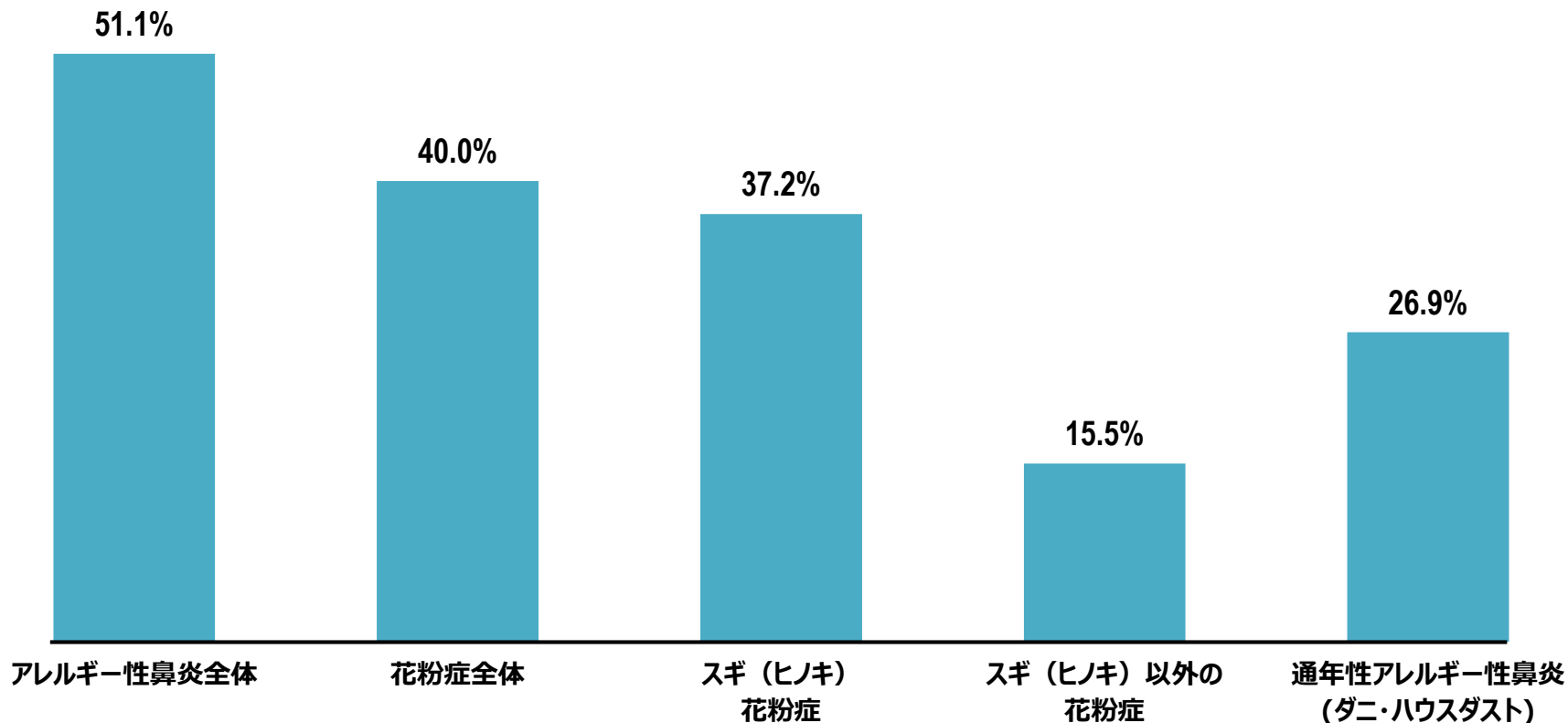
Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。

罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

アレルギー性鼻炎全体の有症率は51.1%だった。



n=2,374

Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

# アレルギー性鼻炎の有症率：スギ（ヒノキ）花粉症

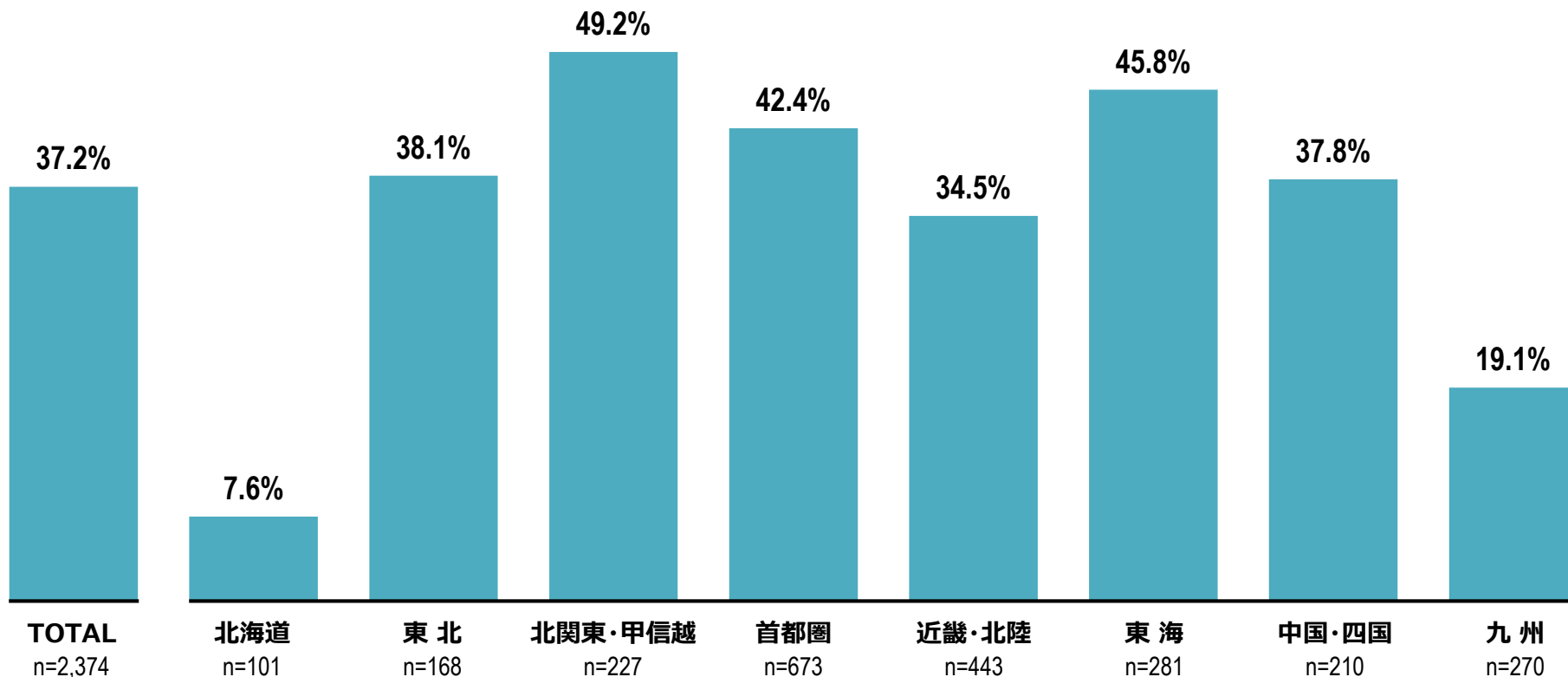
エリア別

※医師+家族ベースのウェイトバック集計



北関東・甲信越が最も高く49.2%。

次いで、東海45.8%、首都圏42.4%、東北38.1%、中国・四国37.8%となった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

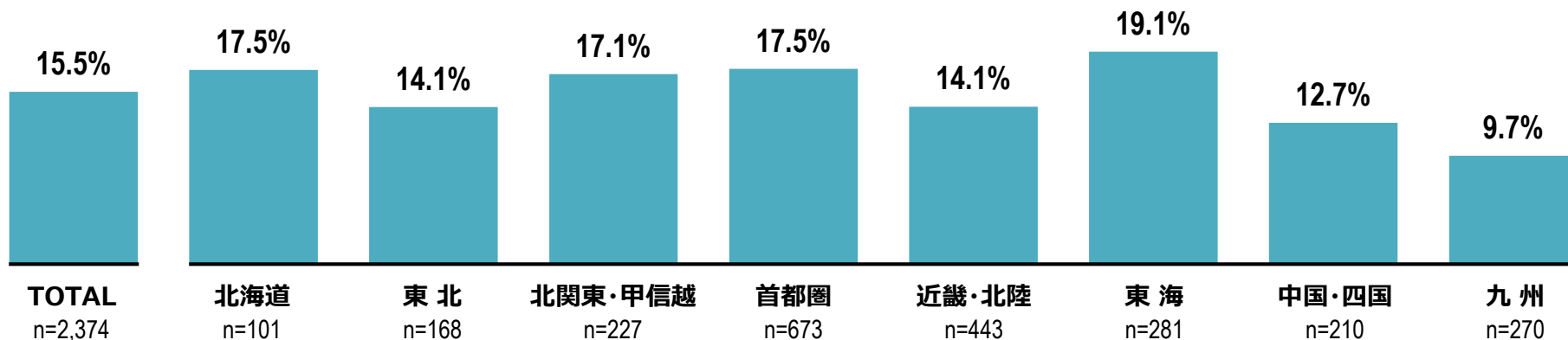
\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

# アレルギー性鼻炎の有症率：スギ（ヒノキ）以外の花粉症

エリア別

※医師+家族ベースのウェイトバック集計

東海が最も高く19.1%。次いで、北海道と首都圏17.5%、北関東・甲信越17.1%となった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）



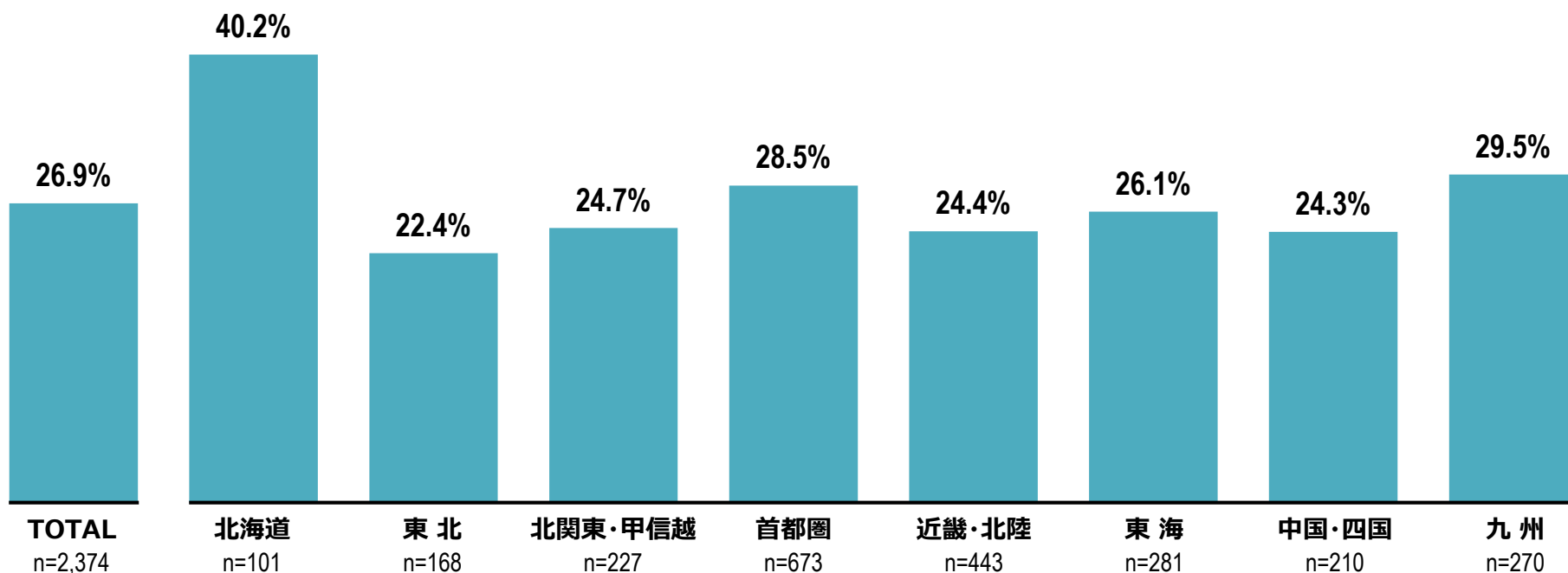
# アレルギー性鼻炎の有症率：通年性アレルギー性鼻炎（ダニ・ハウスダスト）

エリア別

※医師+家族ベースのウェイトバック集計



北海道が最も高く40.2%。次いで、九州29.5%、首都圏28.5%、東海26.1%となった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

# アレルギー性鼻炎の有症率：スギ（ヒノキ）花粉症

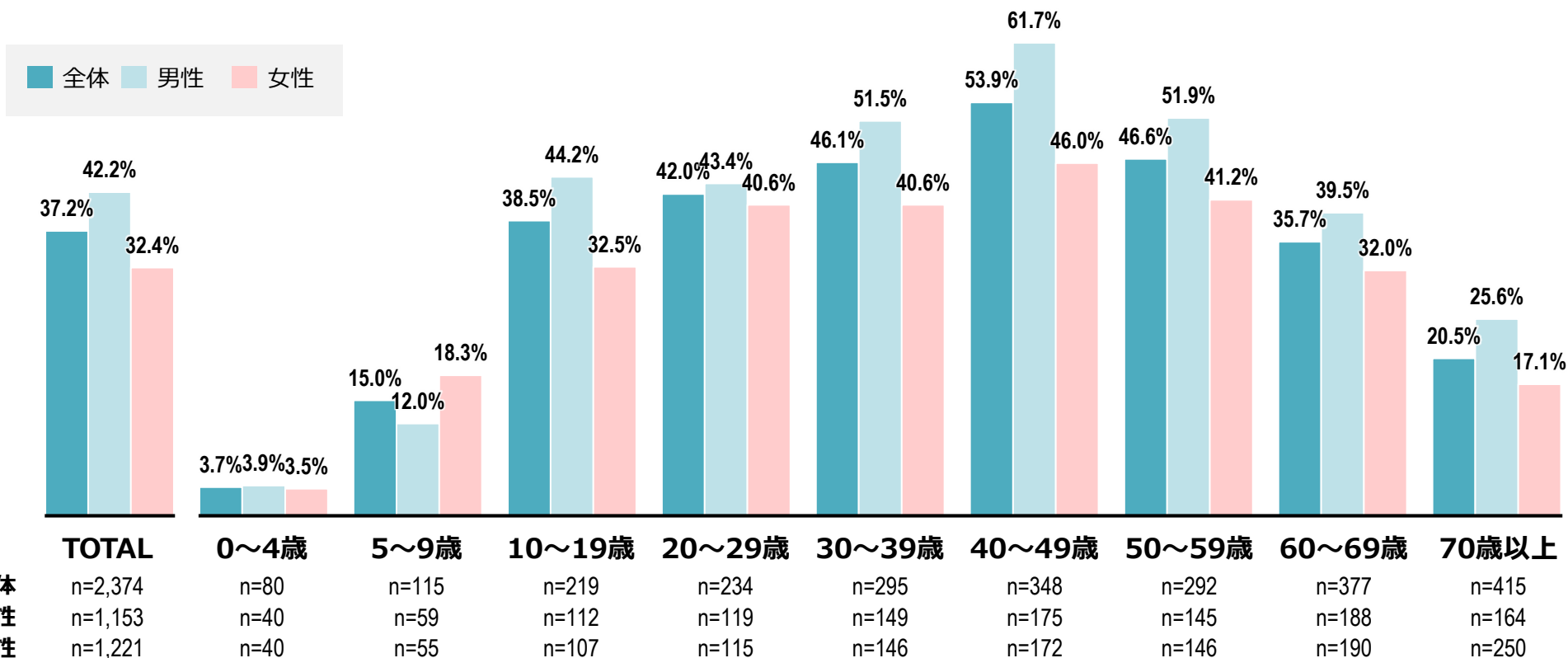
性・年代別



※医師+家族ベースのウェイトバック集計

全体では「40～49歳」が最も高く53.9%、次いで「50～59歳」が46.6%、「30～39歳」が46.1%となった。  
また、「70歳以上」も20.5%が何らかの症状を有していた。

男女別では、男性は「40～49歳」が最も高く61.7%、女性でも「40～49歳」が最も高く46.0%だった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。

罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

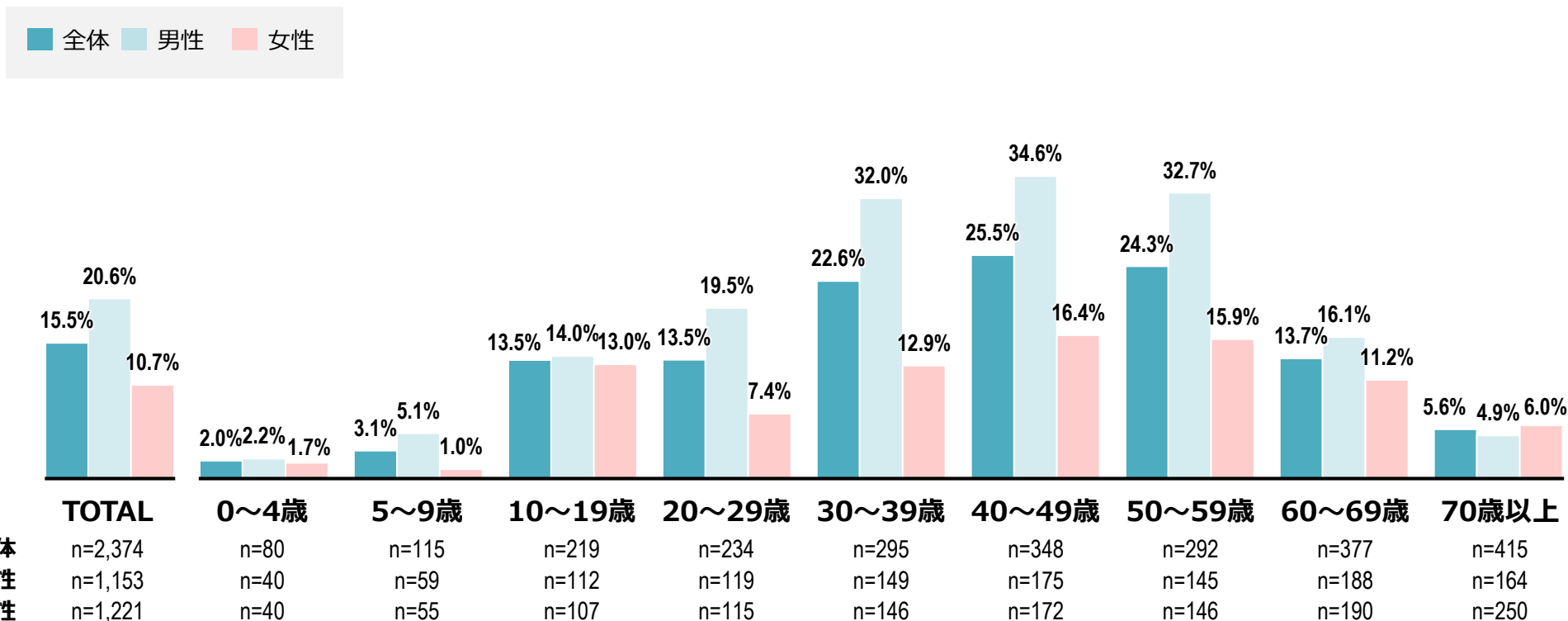
# アレルギー性鼻炎の有症率：スギ（ヒノキ）以外の花粉症

性・年代別



※医師+家族ベースのウェイトバック集計

全体では「40～49歳」が最も高く25.5%、次いで「50～59歳」が24.3%、「30～39歳」が22.6%となった。  
男女別では、男性は「40～49歳」が最も高く34.6%、女性でも「40～49歳」が最も高く16.4%だった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。

罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

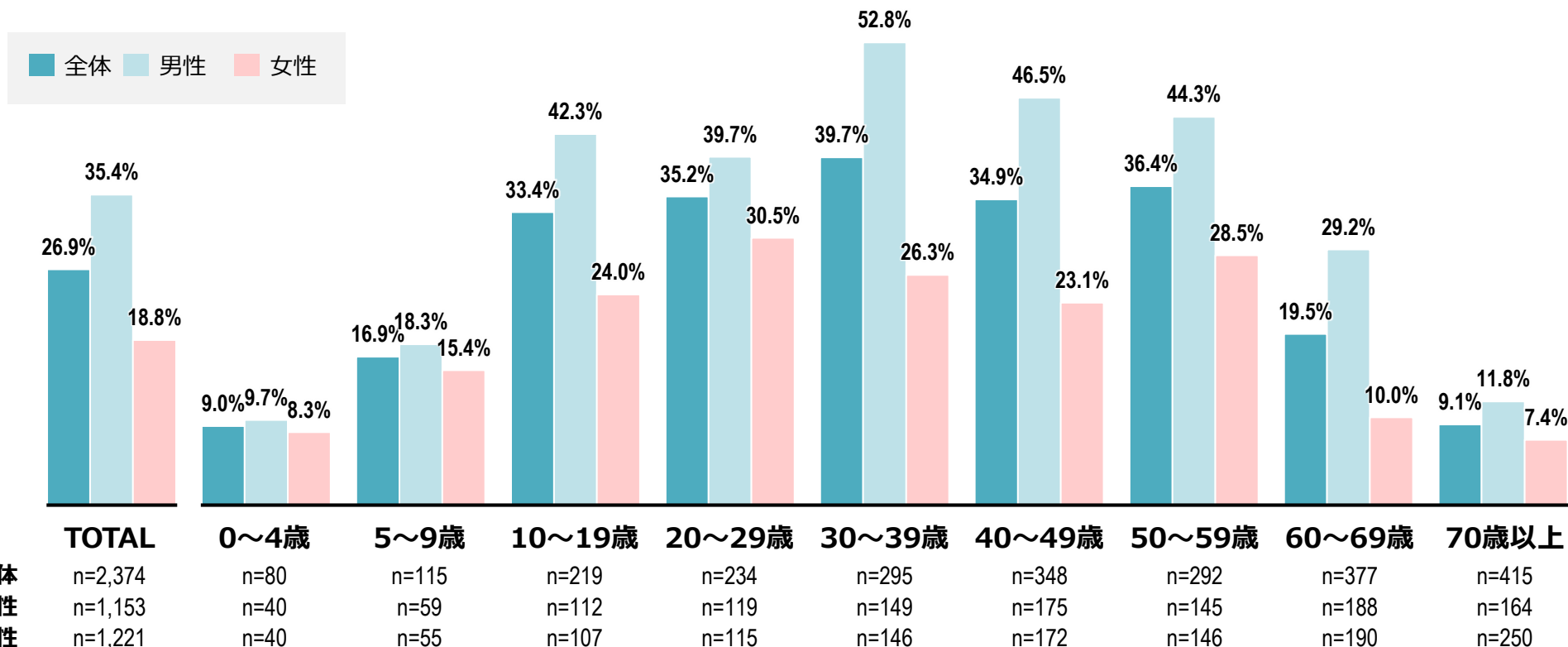
# アレルギー性鼻炎の有症率：通年性アレルギー性鼻炎（ダニ・ハウスダスト）

性・年代別



※医師+家族ベースのウェイトバック集計

通年性アレルギー性鼻炎の有症率は10～59歳の幅広い年代で総じて高く、年代別では「30～39歳」が最も高く39.7%、次いで「50～59歳」が36.4%、「20～29歳」が35.2%であった。



Q3: 先生が罹患しているアレルギー系疾患を下記の中からすべてお選びください。抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

Q9: 一親等以内（配偶者の両親を除く）の家族に関して、それぞれ年代・続柄・居住地域（都道府県）・罹患しているアレルギー系疾患をお教えてください。

罹患しているアレルギー系疾患に関しては、あてはまるものをすべてお選びください。

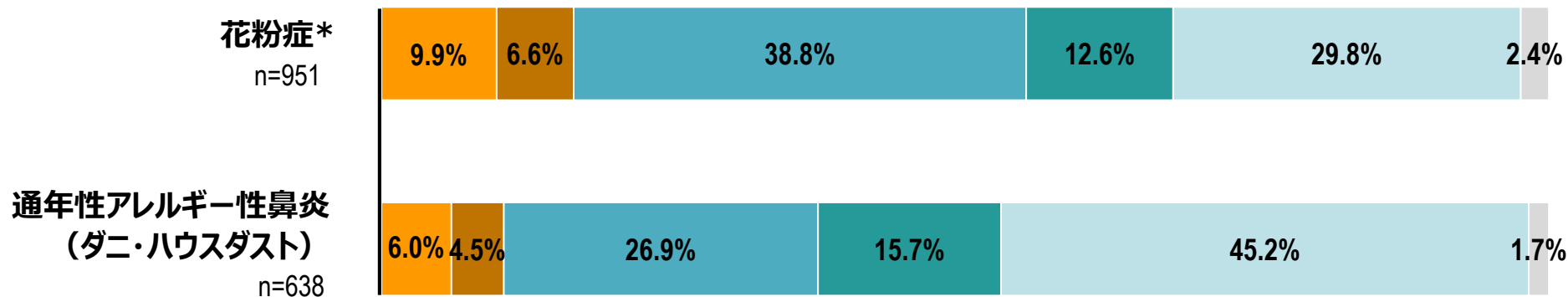
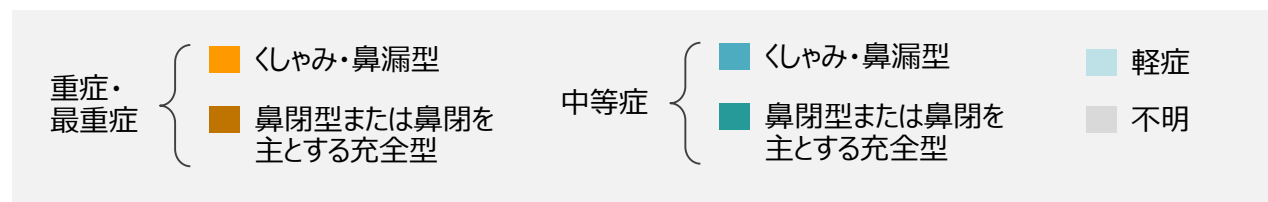
抗体確認の有無は問わないものとしてお答えください。

\* 対象：ご両親、お子様、配偶者（先生ご本人、配偶者の両親は除く）

# アレルギー性鼻炎の重症度 TOTAL

※医師+家族ベースのウェイトバック集計

花粉症〔スギ（ヒノキ）花粉症+スギ（ヒノキ）以外の花粉症の合計〕では、くしゃみ・鼻漏型の中等症以上が48.7%、鼻閉型または鼻閉を主とする充全型の中等症以上が19.2%となり、全体では67.9%が中等症以上だった。通年性アレルギー性鼻炎では、くしゃみ・鼻漏型の中等症以上が32.9%、鼻閉型または鼻閉を主とする充全型の中等症以上が20.2%となり、全体では53.1%が中等症以上だった。

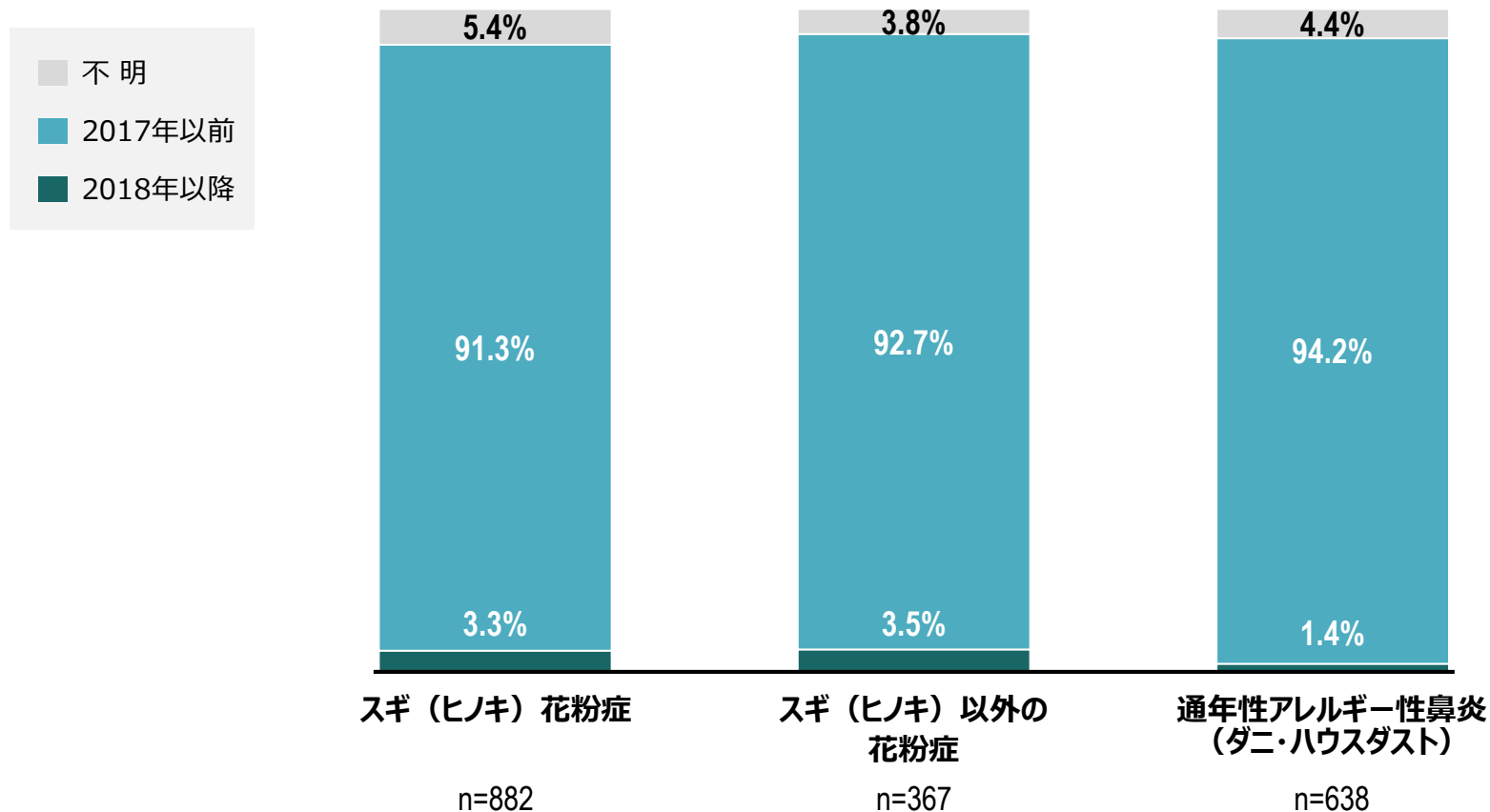


\*スギ（ヒノキ）花粉症+スギ（ヒノキ）以外の花粉症の合計

Q5: 先生が罹患している〇〇の重症度をお教えてください。以下からあてはまるものを、それぞれお選びください。重症度の基準については、下記表をご参考にご回答ください。

Q11: 〇〇に罹患されている〇人目のご家族（再掲：続柄）が罹患している〇〇の重症度をお教えてください。あてはまるものを下記の中からお選びください。重症度の基準については、下記表をご参考にご回答ください。

調査を行った2018年に発症したのは、スギ（ヒノキ）花粉症患者全体の3.3%、スギ（ヒノキ）以外の花粉症患者全体の3.5%、通年性アレルギー性鼻炎患者全体の1.4%だった。



Q4: 先生が罹患している〇〇に関して、初めて発症した時期をお教えてください。

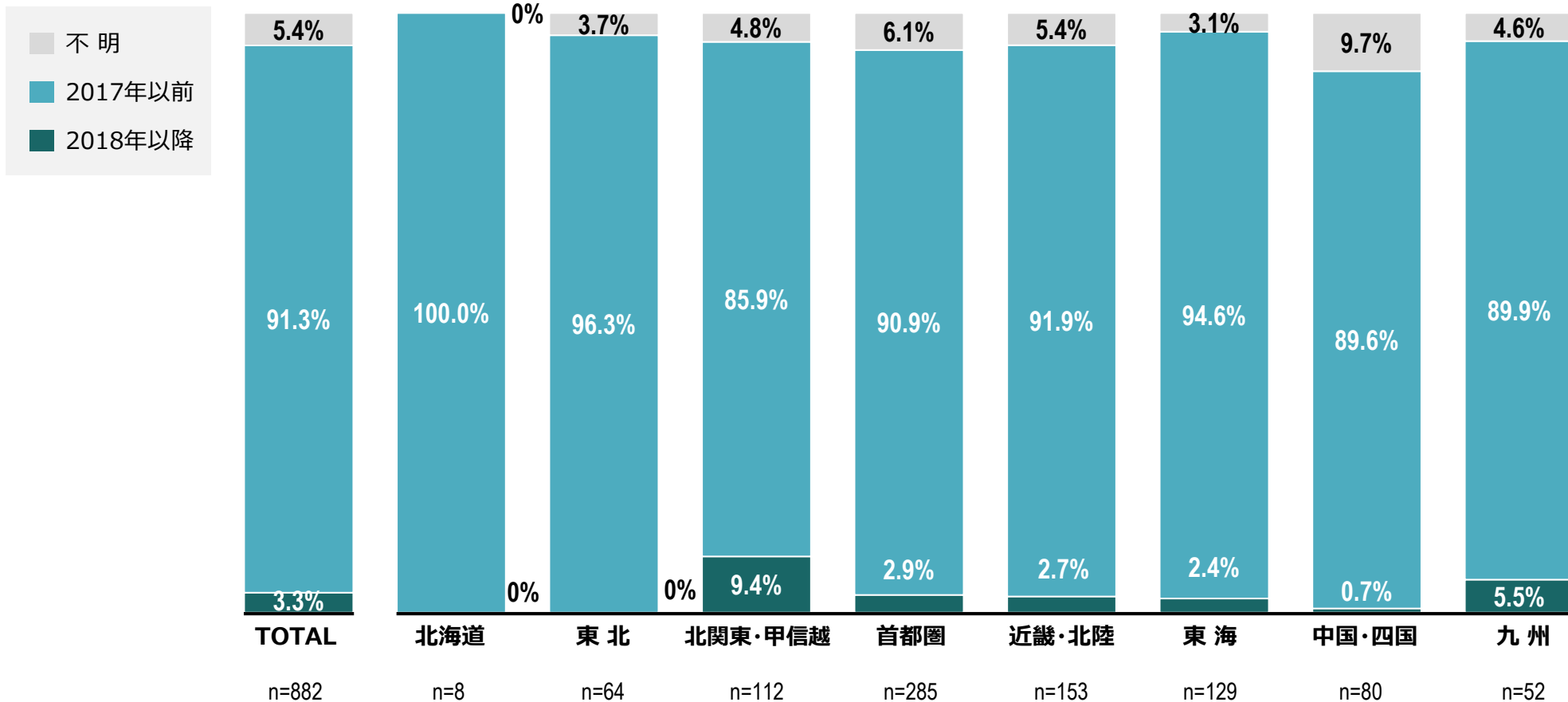
Q10: 〇〇に罹患されている〇人目のご家族（再掲：続柄）が罹患している〇〇に関して、初めて発症した時期をお教えてください。

# アレルギー性鼻炎の発症時期：スギ（ヒノキ）花粉症

エリア別

※医師+家族ベースのウェイトバック集計

エリア別に見ると、2018年以降にスギ（ヒノキ）花粉症を発症した患者の割合は、北関東・甲信越が最も多く9.4%、次いで九州5.5%、首都圏2.9%、近畿・北陸2.7%だった。



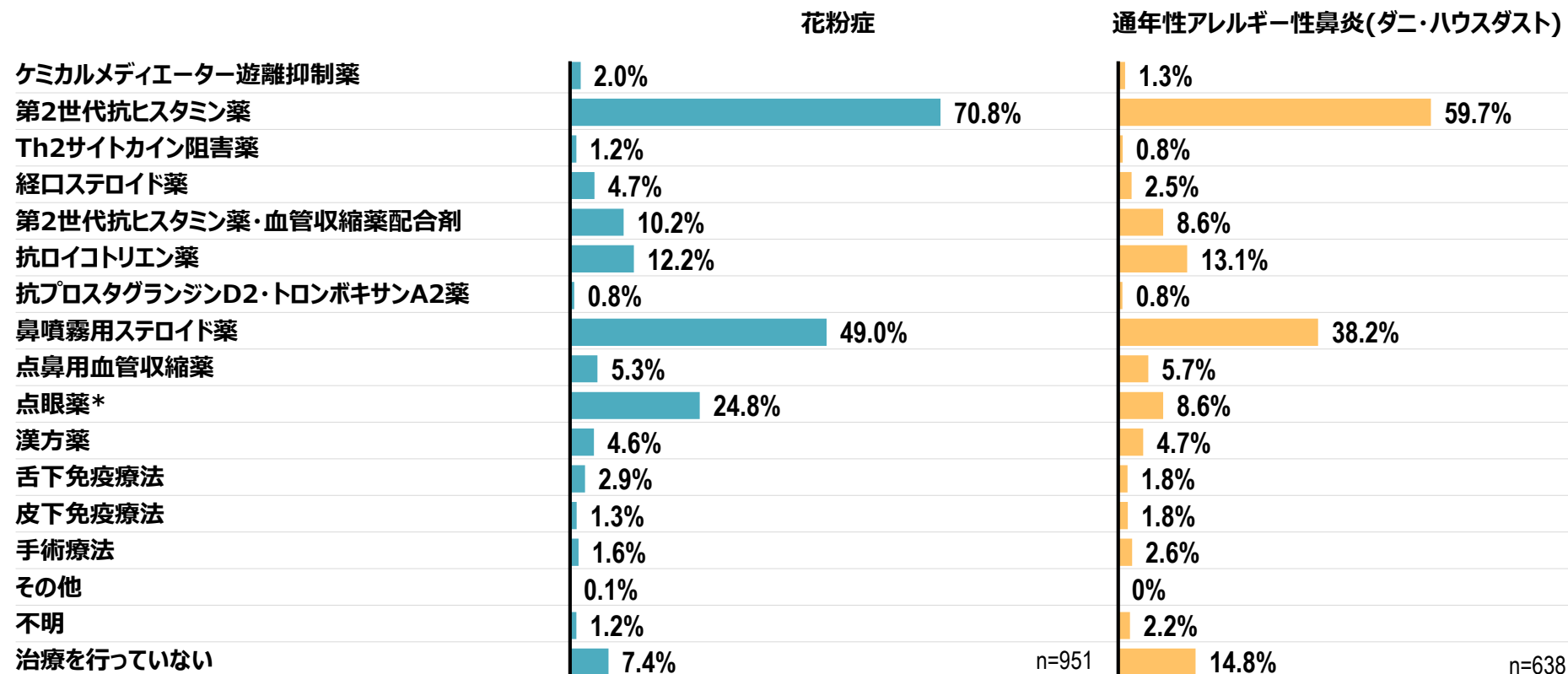
Q4: 先生が罹患している〇〇に関して、初めて発症した時期をお教えてください。

Q10: 〇〇に罹患されている〇人目のご家族（再掲：続柄）が罹患している〇〇に関して、初めて発症した時期をお教えてください。

※医師+家族ベースのウェイトバック集計

花粉症（スギ（ヒノキ）花粉症+スギ（ヒノキ）以外の花粉症の合計）では、「第2世代抗ヒスタミン薬」が最も多く70.8%、次いで「鼻噴霧用ステロイド薬」49.0%、「点眼薬（抗ヒスタミン薬、ケミカルメディエーター遊離抑制薬、ステロイド薬）」24.8%となった。また、「舌下免疫療法」は2.9%だった。

通年性アレルギー性鼻炎では、「第2世代抗ヒスタミン薬」が最も多く59.7%、次いで「鼻噴霧用ステロイド薬」38.2%、「抗ロイコトリエン薬」13.1%となった。また、「舌下免疫療法」は1.8%だった。



\* 抗ヒスタミン薬、ケミカルメディエーター遊離抑制薬、ステロイド薬

Q6-1: 先生が〇〇の治療としてご自身で服用されている治療薬/選択されている治療法は何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

Q12: 〇〇に罹患されている〇人目のご家族（再掲：続柄）が〇〇の治療として服用している薬剤/行っている治療法は何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。



# 選択している治療薬・治療法：花粉症

重症度別

※医師+家族ベースのウェイトバック集計

第2世代抗ヒスタミン薬は「中等症かつしゃみ・鼻漏型」で最も高く、79.0%だった。鼻噴霧用ステロイド薬は「重症・最重症かつ鼻閉・充全型」で最も高く、73.6%だった。点眼薬は「重症・最重症かつ鼻閉・充全型」で最も高く、33.4%だった。抗ロイコトリエン薬は「重症・最重症かつ鼻閉・充全型」で最も高く、27.5%だった。第2世代抗ヒスタミン薬・血管収縮薬配合剤は「重症・最重症かつ鼻閉・充全型」で最も高く、17.8%だった。舌下免疫療法は「中等症かつ鼻閉・充全型」で最も高く、6.1%だった。

	重症・最重症				中等症		軽症	不明
	TOTAL	くしゃみ・鼻漏型	鼻閉・充全型	くしゃみ・鼻漏型	鼻閉・充全型			
ケミカルメディエーター遊離抑制薬	2.0%	3.4%	11.3%	1.3%	0.6%	1.2%	0%	
第2世代抗ヒスタミン薬	70.8%	68.1%	72.4%	79.0%	73.9%	60.1%	61.0%	
Th2サイトカイン阻害薬	1.2%	3.2%	3.9%	0.5%	0.8%	1.0%	0%	
経口ステロイド薬	4.7%	8.4%	8.9%	4.3%	6.3%	2.7%	0%	
第2世代抗ヒスタミン薬・血管収縮薬配合剤	10.2%	13.5%	17.8%	10.9%	15.0%	5.5%	0%	
抗ロイコトリエン薬	12.2%	13.5%	27.5%	12.3%	19.0%	6.3%	0%	
抗プロスタグランジンD2・トロンボキサンA2薬	0.8%	0%	3.5%	0.7%	1.2%	0.5%	0%	
鼻噴霧用ステロイド薬	49.0%	49.3%	73.6%	54.4%	56.6%	35.3%	24.3%	
点鼻用血管収縮薬	5.3%	10.1%	10.9%	4.1%	9.6%	2.6%	0%	
点眼薬*	24.8%	25.8%	33.4%	29.4%	24.9%	18.4%	0%	
漢方薬	4.6%	2.2%	8.0%	6.8%	3.2%	2.6%	0%	
舌下免疫療法	2.9%	2.3%	3.7%	2.5%	6.1%	2.2%	0%	
皮下免疫療法	1.3%	0%	6.7%	1.0%	2.9%	0.3%	0%	
手術療法	1.6%	3.8%	7.1%	1.3%	1.6%	0.3%	0%	
その他	0.1%	0%	0%	0%	0%	0.2%	0%	
不明	1.2%	2.5%	0%	0.3%	0.8%	1.1%	18.8%	
治療を行っていない	7.4%	2.6%	2.4%	4.3%	1.7%	15.4%	20.2%	
	n=951	n=94	n=63	n=368	n=120	n=283	n=23	

\* 抗ヒスタミン薬、ケミカルメディエーター遊離抑制薬、ステロイド薬

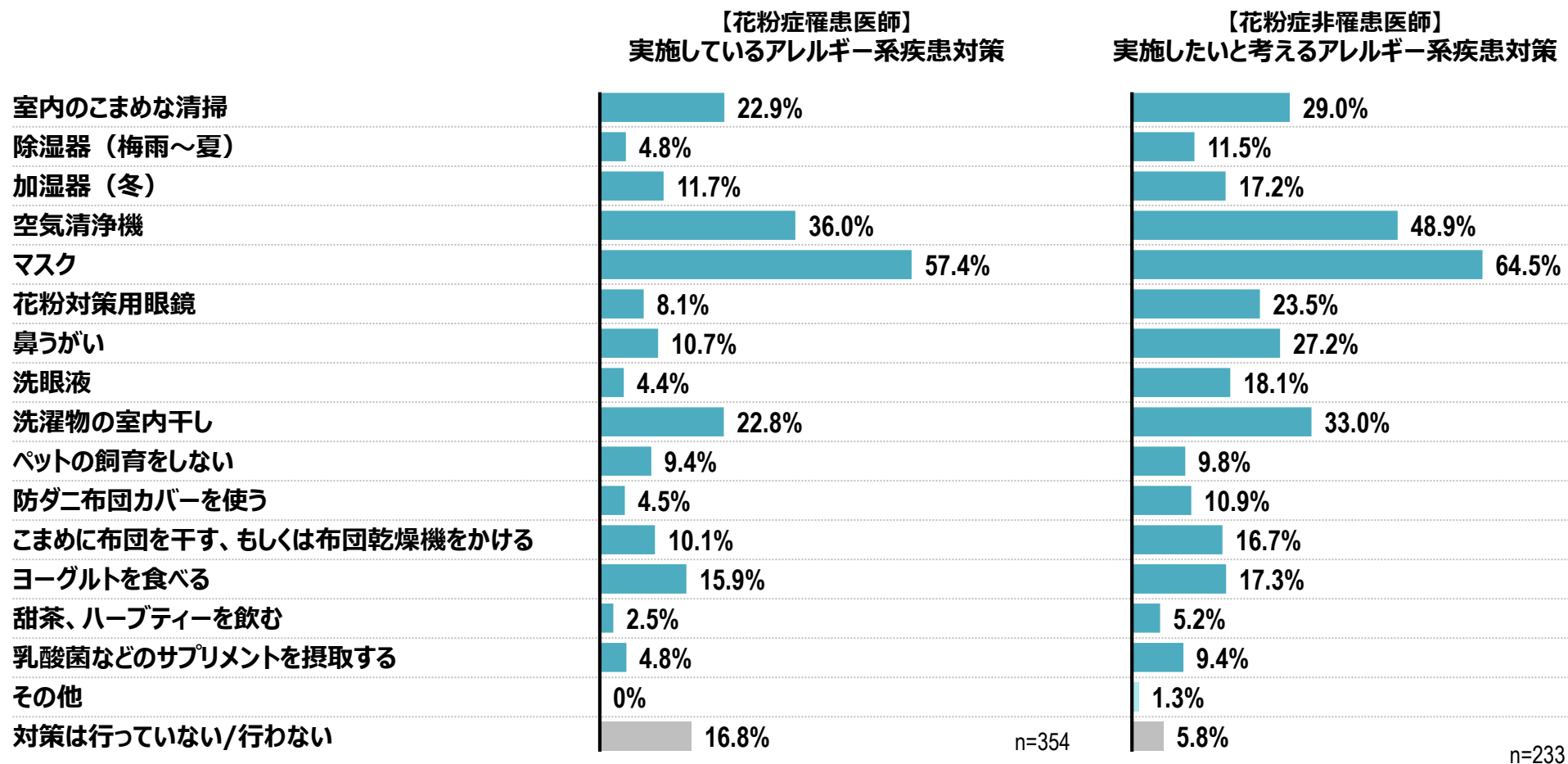
Q6-1: 先生が〇〇の治療としてご自身で服用されている治療薬/選択されている治療法は何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

Q12: 〇〇に罹患されている〇人目のご家族（再掲：続柄）が〇〇の治療として服用している薬剤/行っている治療法は何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

# 実施中/実施したいアレルギー性鼻炎対策：花粉症

※医師ベースのウェイトバック集計

花粉症罹患医師では「マスク」が最も多く57.4%、次いで「空気清浄機」36.0%、「室内のこまめな清掃」22.9%、「洗濯物の室内干し」22.8%となった。花粉症に罹患していない医師では、「マスク」が最も多く64.5%、次いで「空気清浄機」48.9%、「洗濯物の室内干し」33.0%、「室内のこまめな清掃」29.0%となった。



Q7-1: 先生が〇〇対策として、ご自身で行っているもの/利用しているものは何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

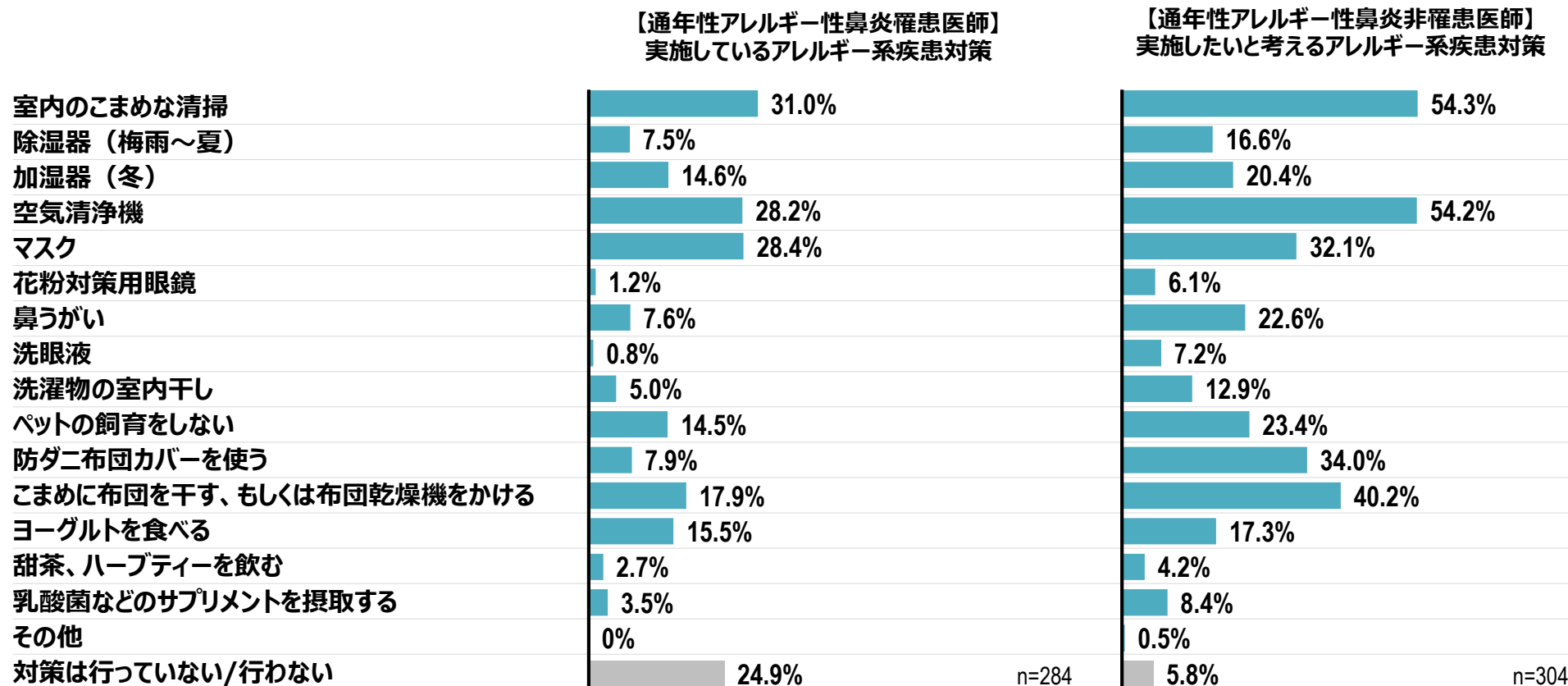
Q7-2: 先生が〇〇に罹患していると仮定した場合、対策としてご自身で行いたいもの/利用したいものは何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

# 実施中/実施したいアレルギー性鼻炎対策：通年性アレルギー性鼻炎（ダニ・ハウスダスト）

※医師ベースのウェイトバック集計

通年性アレルギー性鼻炎罹患医師では「室内のこまめな清掃」が最も多く31.0%、次いで「マスク」28.4%、「空気清浄機」28.2%となった。

通年性アレルギー性鼻炎に罹患していない医師では、「室内のこまめな清掃」が最も多く54.3%、次いで「空気清浄機」54.2%「こまめに布団を干す、もしくは布団乾燥機をかける」40.2%、「防ダニ布団カバーを使う」34.0%となった。



Q7-1: 先生が〇〇対策として、ご自身で行っているもの/利用しているものは何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

Q7-2: 先生が〇〇に罹患していると仮定した場合、対策としてご自身で行いたいもの/利用したいものは何ですか。あてはまるものを、下記の中からすべてお選びください。

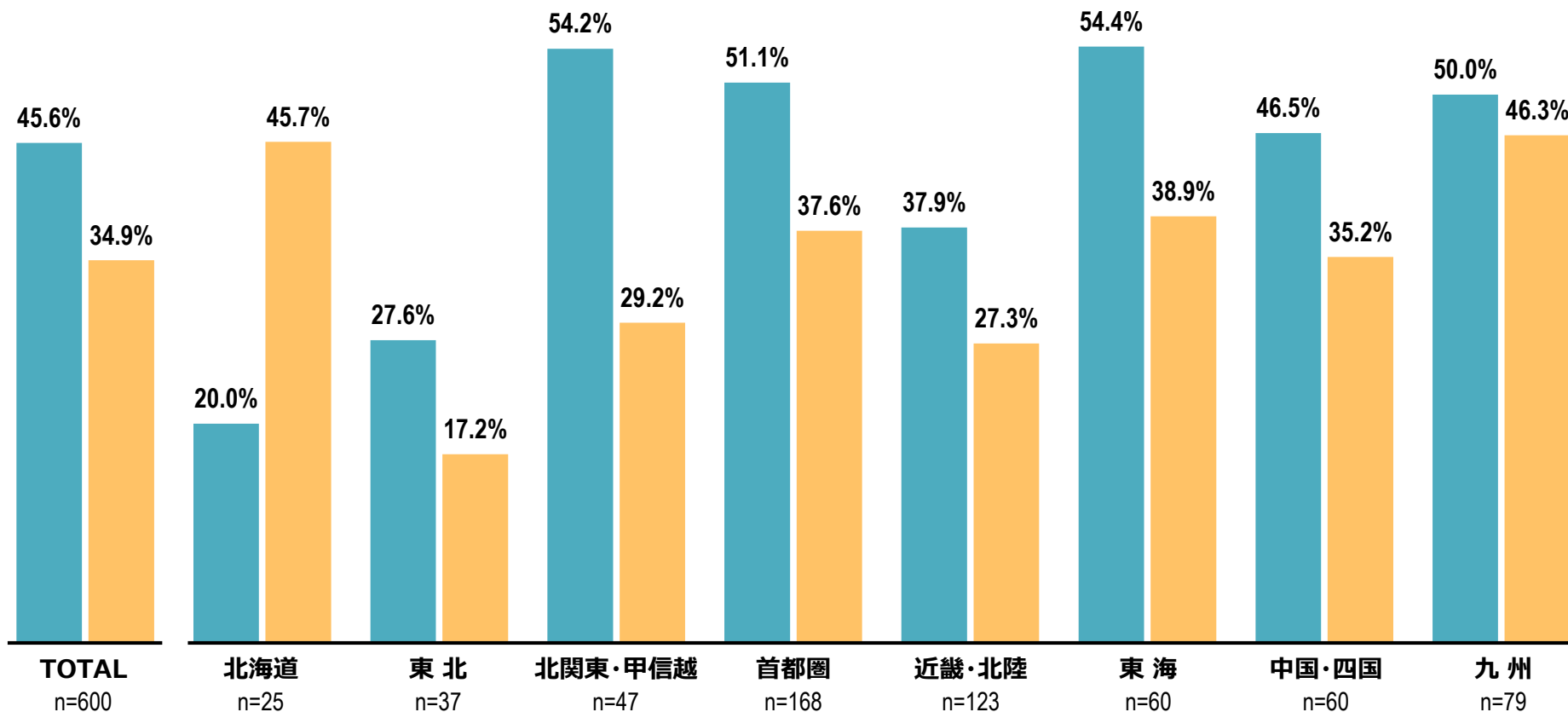
# 舌下免疫療法の実施率

エリア別

※医師ベースのウェイトバック集計

スギ舌下免疫療法では45.6%の医師が「実施したことがある」と回答した。  
ダニ舌下免疫療法では34.9%の医師が「実施したことがある」と回答した。

■ スギ舌下免疫療法 ■ ダニ舌下免疫療法



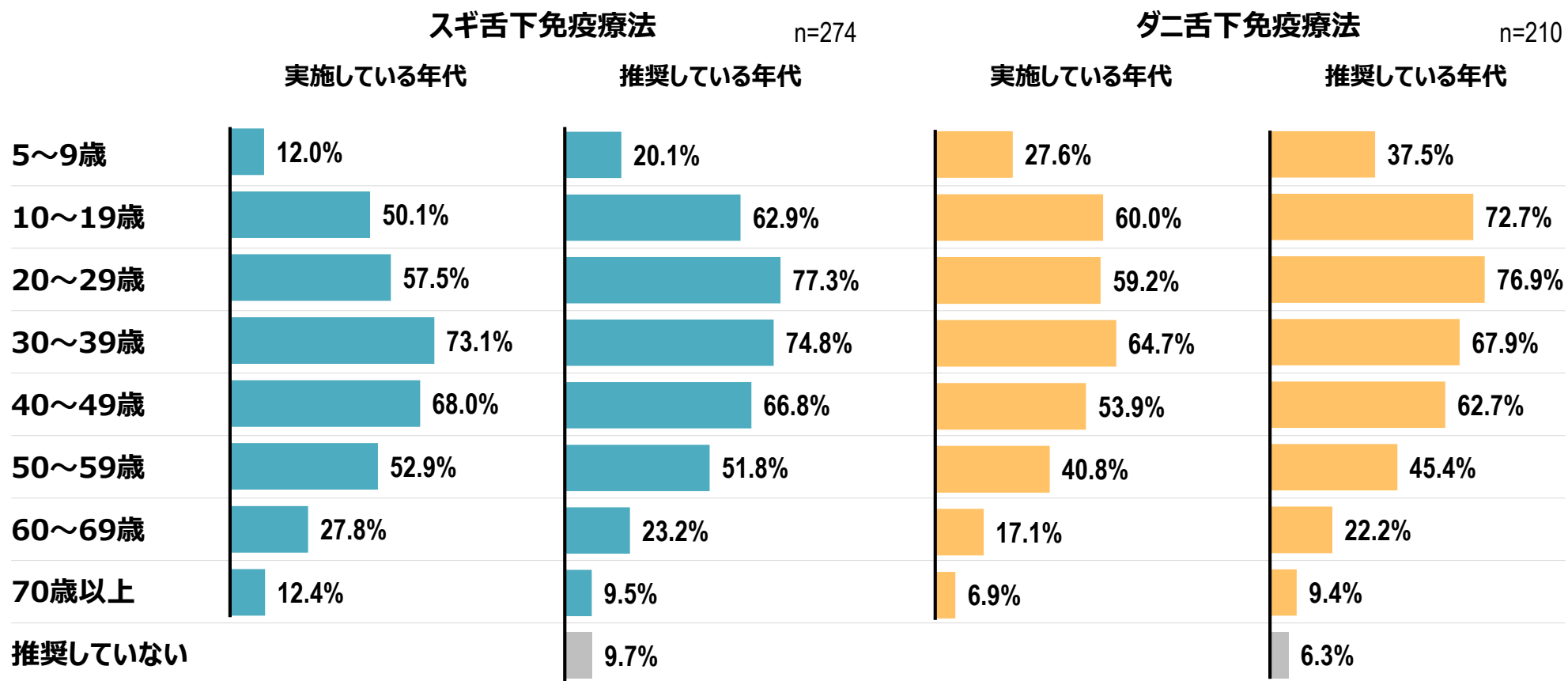
Q13: 直近1年間において先生の施設で診療された下記の患者数をお教えてください。  
また、そのうちの舌下免疫療法の実施・検討状況を割合でお教えてください。

# 舌下免疫療法を実施/推奨している患者の年齢

※医師ベースのウェイトバック集計

スギ舌下免疫療法実施では、「30～39歳」が最も多く73.1%。次いで、「40～49歳」68.0%、「20～29歳」57.5%、「50～59歳」52.9%となった。

ダニ舌下免疫療法実施では、「30～39歳」が最も多く64.7%。次いで、「10～19歳」60.0%、「20～29歳」59.2%、「40～49歳」53.9%となった。

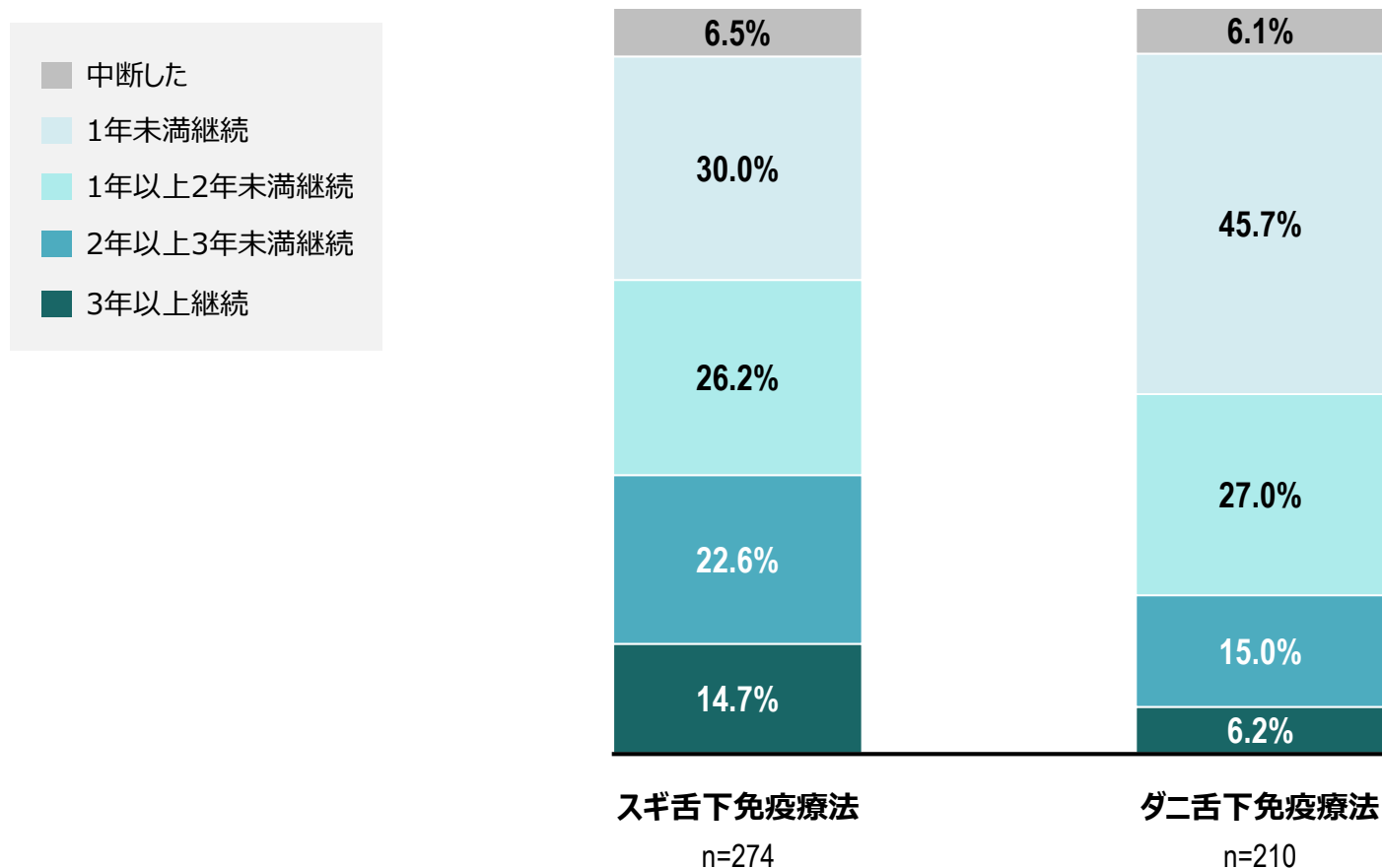


Q14: 先生の施設で舌下免疫療法を実施、推奨している患者さんの年齢についてお伺いします。それぞれあてはまるものをすべてお選びください。

# 舌下免疫療法の継続状況

※医師+家族ベースのウェイトバック集計

スギ舌下免疫療法では、14.7%が3年以上治療を継続していた。一方、6.5%が治療を中断していた。  
ダニ舌下免疫療法では、6.2%が3年以上治療を継続していた。一方、6.1%が治療を中断していた。

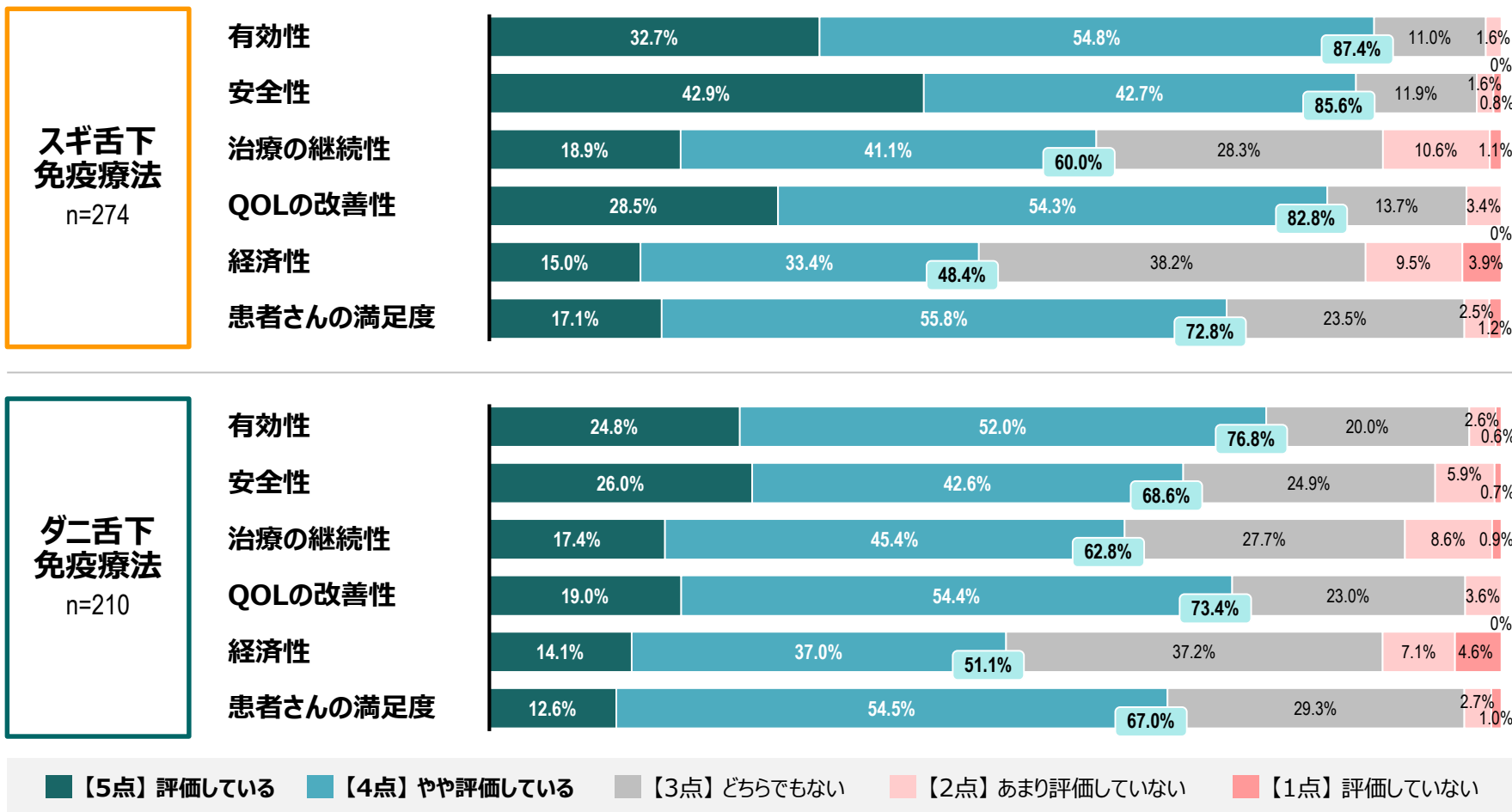


Q15: 先生の施設でこれまでに舌下免疫療法を実施した患者さんを100%とした場合における、舌下免疫療法の継続状況をお教えてください。

# 舌下免疫療法の評価

※医師ベースのウェイトバック集計

「評価している」「やや評価している」と回答した割合の合計は、スギ舌下免疫療法では、「有効性」が最も多く87.4%。次いで、「安全性」85.6%、「QOLの改善性」82.8%、「患者さんの満足度」72.8%となった。ダニ舌下免疫療法では、「有効性」が最も多く76.8%。次いで、「QOLの改善性」73.4%、「安全性」68.6%、「患者さんの満足度」67.0%となった。



Q16: スギ舌下免疫療法、ダニ舌下免疫療法に対する先生の評価をお伺いします。それぞれの項目についてあてはまるものを1つお選びください。